



伊藤手帳(株) (伊藤亮仁社長) は、昭和12年の創業後、昭和29年伊藤手帳製作所を設立以降、手帳づくりへの拘りをもち続け、その60有余年間のノウハウにうらづけされた技術で手帳のメーカーとして、中部地区でナンバーワンである。企画、手帳カバーの製造・箔押し加工から、製造全てを自社工場(グループ会社含む)で製作している。特に、自社でW箔押し加工が可能なのは中部地区では同社が唯一であり、これまでに蓄積された膨大な技術とノウハウ、さらにそれに加え、センサーやカメラの取り付けられた機械と人のダブルチェックなどにより、高品質製品の安定を保つことを可能にしており、多くの大手メーカーからの依頼も多い。また、広くフラットな工場で生産効率を上げることで、納期を厳守する。

「蓄積してきた膨大な技術・ノウハウで満足を届ける」

■フルオーダーメイド手帳

デザインから本文の校正、ページ数、表紙素材・手帳の用紙の変更などお客様の要望やイメージにあわせて完全オリジナルのビジネス手帳の企画・制作を行なう。今までの手帳を見直したい、初めて手帳を作る。そんなお客様には打ち合わせ後に手帳本体、カバーの見本を制作。お客様のイメージを形にして提案することで、その後の打ち合わせがよりスムーズに進む。

□手順: 問い合わせ→打ち合わせ→本文のデータ作成開始→校正出し→お客様の確認→表紙の見本提出→製造開始→納品

■セミオーダーメイド手帳

同社の既製品の手帳を加工し、オーダーメイドによるオリジナル手帳を製作する。ビニールカバーに金箔などで社名・マークなどを箔押し製作さらに、本文にオリジナルページを追加したり、見返しにオリジナルの印刷も可能である。

■プレミアム手帳

定番サイズの手帳は表紙を革製カバーにカスタマイズできる。カバーにはポケットとペンホルダーがついているので機能性も抜群で、通常の

手帳とはワンランク上のビジネスライフを演出する。

■手帳制作工程

①断裁: 印刷物を最初に大断ちする工程は、手帳の品質を決めるのにとっても重要で、1ミリの誤差でも、その後の工程で見開きのカレンダーがずれてしまったり、罫線メモのページがずれてしまったりする。同社では、経験豊富な職人が細心の注意を払って、最初断裁を行なっている。

②折り: 見開きのカレンダー、罫線、路線図などを正確に、すらすらに折ることは、同社の腕の見せ所で、特に手帳で使用する紙は一般と比べて薄いので、より高度な技術が求められる。

③丁合: 乱丁、落丁が絶対に発生しないよう、検知器の導入はもちろんのこと、乱丁、落丁防止のバーコード、背丁(順番を確認するためのベタ印刷)の目視検品を入念に行なっている。

④糸かがり: 180度開き、かつ長時間の使用に耐えられる丈夫さを守るために、耐久性に優れている糸かがり製本を採用している。糸かがりは手帳製本の心臓にあたり、同社では、2台の最先端な糸かがり機を含む3



検査用バーコード

台がフル稼働している。

⑤見返し・背囲め・背巻き・ナンバリング: 手帳の背に見返しを貼ってボンドで固め、背巻きの紙を背中にびったりと貼り付ける作業は、手帳に耐久性を持たせるためにとても重要な作業で、ここにも手帳職人の技とノウハウが活かしている。

⑥断裁: 業界最先端の三方断裁機によりスピーディーで高品質な断裁が行なわれた後、自動角丸機によりコーナーをカットする。

⑦リボン: 手帳の背にリボン(しおり紐)を付ける工程で、同時に2本付けることができる。一年間取れずに使用できるよう、背の接着部分には十分な強度が必要とされる。リボンの色も、表紙カバーの色に合わせるなど、好きな色を選べる。

⑧表紙くるみ: ビニール表紙と中身を専用ボンドでくるむ。ビニール表紙にコーナーポケットがある場合や、サイズや表紙素材によってボンド量の微調整が必要なので、職人の技が要求される。



最新鋭の三方断裁ライン